

鹿児島市における漁業者の6次産業化推進

鹿児島地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

鹿児島市においては、零細な沿岸漁業者が大多数を占めているが、近年は魚価の低迷や燃油価格の高止まり、魚離れの進行などにより漁業経営は厳しい状況にある。

このことから、複数の若手漁業者がグループを結成し、漁獲物を加工・販売する6次産業化に取り組み始め、5年が経過したところである。この間、国では浜の活力再生プランを中心とした施策がまったころから、本制度を取り込みながら6次産業化定着に向けて活動を支援した。

【普及の内容・特徴】

谷山漁協において平成24年7月、組合員9名が販売収入の向上を図るため「谷山漁協朝獲れ地魚直販グループ」を結成した。局では地域振興推進事業を活用した、地魚販売の先進事例研修を支援するとともに、平成25年度以降は、毎月第4日曜日に谷山港で開催される「谷山朝獲れ市」に協力している。

シンクやパック台など厨房設備の整備を「チャレンジ！元気な水産業創出支援事業」（平成26年度県単）により支援し、地元の物産館へパック詰めや刺身盛などの商品の出荷も開始されるようになった。

谷山地区の浜の活力再生プラン策定（平成27年度）にあたっては、グループ員が先進地を視察して、他県の物産館等における直接販売の取組を参考とした「販路強化と拡大の取組」を盛り込むことを指導した。

平成28～29年度は、同プランに沿った直接販売に商品を供給している「谷山漁協小型定置網グループ」の定置網の技術改良を「浜の活力再生支援事業」により支援し漁獲量の増加に取り組んだ。

また、販売ロスを解消するため、冷凍加工品の販売に向けて急速冷凍の試験指導にも取り組んだ。

【成果・活用】

平成25年度から毎月地魚を販売している谷山朝獲れ市は、固定客が出来るなど地域に定着することができた。また、谷山漁協小型定置網グループから安定して提供される地魚は、市の開催を支えている。

このような活動により、地元の物産館やスーパー、レストランへの出品、地元イベントでの販売など販路の拡大につながる波及効果も見られる。しかし、一方では出荷経費や物産館等の販売手数料により利益が上がりにくい状況が続いている。

このため、浜の活力再生プランにも盛り込んでいる漁協直営による水産物販売所開設の検討や冷凍加工品の開発にも取り組み、6次産業化の展開を図ることで、沿岸漁業者の所得向上と経営改善が期待される。



谷山朝獲れ市の様子



地元に着した谷山朝獲れ市



谷山朝獲れ市 5周年イベントの様子



冷凍加工品の試作品



冷凍加工品の試作品



試作品の試食